

中学校・高等学校版

がん教育プログラム

補助教材

本プログラムは健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、がん患者やその家族など、がんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図ることを目的としています。

本教材を活用するに当たっての留意事項

命についての授業になります。生徒の家庭状況や心理面についての配慮が必要です。
本誌P.5の留意事項を、必ず御確認ください。

そして、日本人の二人に一人は、一生のうちに何らかのがんになると推計されています。がんは、命にかかわる病気ですが、現在では、早期に発見し、適切に治療をすれば、治らない病気ではなくなってきました。日本の未来を担う子供たちに、がんの正しい知識や、生きること、命の大切さを理解してほしいと願っています。

がんをテーマとして教育で扱う際に大切なことは、「生きている限り誰にでも起こりうる病気や死といかに向き合うか」という正解が一つではない問を通して、「自分らしい生き方」や「健康と命の大切さ」について考えることです。

がん教育

がんを扱うことを通じて、他の様々な疾病の予防や
望ましい生活習慣の確立を含めた健康教育の充実を図る。

がんの正しい知識について
理解を深める

生きること、命の大切さへの
理解を深める

がんの正しい知識を習得するとともに、「健康と命の大切さ」について考え、
生徒が主体的に考え、行動する力を育成することを目的に
以下の三つの要素を組み込み、プログラムを構成しています。

限られた時間の中での
実施が可能となる選択型
「モジュール形式」

×

がんについて
正しい知識を提供する
医療関係者監修教材

×

生徒の主体的な
思考を促す
「アクティブ・ラーニング」

全9モジュール分の教材を用意しています。学校での授業のねらいに合わせて自由にアレンジして御活用ください。

がんという病気

遺伝子が分断する全ての細胞に
がんができる可能性がある

脳、肺、肝臓、胃、大腸、前立腺、乳腺、膵臓、膀胱、腎臓、骨髄、皮膚、甲状腺

細胞が分裂する全ての細胞質より
がん細胞ができるから

The film strips show the production process of the book 'Living with the World'. The top strip shows the book cover with the title '生活與世界' (Living with the World). The bottom left strip shows a woman, likely the author or editor, and the bottom right strip shows a man, likely the author or editor.

小学生向けには映像教材を用意しています。
必要に応じて御活用ください。(詳細P.17)

プログラム概要

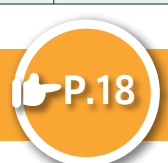
本プログラムは文部科学省「がん教育推進のための教材」に基づき、九つのモジュールを選択して学習いただけます。また、中学校・高等学校で活用いただきやすいよう、1モジュール15分程度で構成しています。**学校のねらいに合わせ、必要なモジュールを選択し、組合わせて御活用ください。**

※プログラムは教員が活用できるように作成していますが、学校の実情に合わせ、学校医やがんの専門医、がん患者など、外部講師の参加・協力によって一層学習が深まります。(P. 3 を参照ください)

対象学年 中学校・高等学校 **関連教科等** 保健、道徳、総合的な学習(探究)の時間、特別活動など
いずれのモジュールも15分程度で実施いただけます。

	モジュールタイトル	概 要	ページ
1	がんという病気	がんとは体の中で異常細胞が際限なく増えてしまう病気である。 がんは一部遺伝要因はあるが、 誤った生活習慣により、なる危険性が増す。	P. 6
2	日本のがんの現状	がんは日本人の死因の第1位で、二人に一人はがんになる可能性がある。がんは細胞分裂の際に発生するため、加齢にともないがんになる人が増え、 誰でもなりうる病気 である。	P. 7
3	がんの発生と進行	がんは発生から自覚症状が出るまでの期間が長い ため、早期に発見するためには、症状がなくても検診を受けることが重要である。	P. 8
4	がんの予防	がんになる危険性を減らすための工夫 としては、たばこを吸わない、ほかの人のたばこの煙を避ける、バランスのとれた食事や適度な運動、定期的ながん検診などが重要である。	P. 9
5	検診の意味	がんになった場合、早期がんに関しては約9割の人が治る。早期に発見するためには、 症状がなくても定期的に検診を受けることが重要 である。	P.10
6	がんの治療で大切なこと	がん治療には三つの柱(手術療法、放射線療法、化学療法)があり、がんの種類と進行度に応じて単独や、組み合わせて行われているが、 医師と相談しながら主体的に選択することが重要 である。	P.11
7	がん治療の支援	がんの支援には、病気に伴う体と心の痛みやつらさを和らげる緩和ケアがあり、 終末期だけでなく、がんと診断された時から受けるもの である。	P.12
8	がん患者の思い	がんの治療は、単に病気を治すだけでなく、治療中、治療後の “生活の質”を大切に し、 がんになってもその人らしく、充実した生き方をすることが重要 である。	P.13
9	がん患者と共に生きる社会	がん患者は増加しているが、生存率が高まり、治る人、社会に復帰する人、病気を抱えながらも自分らしく生きる人が増えてきている。そのような人たちと社会生活を行っていく中で、 がん患者への偏見をなくし、お互いに支え合い、共に暮らしていくことが大切 である。	P.14

ねらいに合わせたモジュールの組合せ例を紹介しています。



外部講師を活用したがん教育の進め方

がん教育の実施に当たり、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深めるためには、がんの専門家(外部講師)との連携が効果的です。

「外部講師を活用したがん教育ガイドライン」を参照の上、学校の実情に合ったがん教育を推進してください。

外部講師を活用したがん教育については、本誌に一部抜粋して紹介していますが、詳しくは文部科学省「外部講師を活用したがん教育ガイドライン」をご参照ください。

外部講師を活用したがん教育ガイドライン

検索

基本方針

地域や学校の実情に応じて、学校医、がん専門医、がん患者、がん経験者など、それぞれの専門性が生かせるよう指導の工夫を行い、教員と連携を密に図りながら実施する。

● 実施の手順(例)

	学校内	外部講師との調整
①企画	○保健主事、授業を担当する保健体育教諭、学級担任等を中心に核となる教員を決め、関係教職員と連携しつつ、外部講師を活用したがん教育を企画する。 ・どんなテーマで ・いつ ・だれを講師に	○外部講師を活用したがん教育の企画に合わせて、関係機関に講師の派遣を依頼する。 ・事前打診 ・正式依頼状送付 ・打合せ日程調整
②打合せ	○外部講師を活用したがん教育の実施に向けて、教職員の共通理解を図り、実施内容等について話し合う。また、教科書やがん教育に関わるビデオ、パンフレットなどの資料を準備し、外部講師を活用したがん教育の講師予定者との打合せに備える。	○外部講師を活用したがん教育の講師予定者と当日の指導内容や指導方法について打合せを行う。 ・詳細な日程 ・講師と学校の役割分担 ・準備品等 ・指導上の留意事項の確認
③準備・事前指導	○当日生徒に配布する資料や使用する視聴覚機材を準備する。 ○必要な場合には事前学習・事前指導等を行う。	○資料や視聴覚機材についての最終確認を行う。 ○講師と教員との役割分担についても確認する
④外部講師を活用したがん教育	○ねらいの説明、講師の紹介を行う。 ○がん教育を実施する。	[がん教育を実施する]
⑤事後指導	○関連教科と結びつけた指導を行う。 ○生徒からの質問、感想を集約、分析する。	○講師に感想を尋ねる。 ○生徒の疑問点、意見、感想を伝え、回答を得るとともに、指導上の課題、実施後の指導について話し合う。
⑥評価まとめ	○成果と課題について担当で話し合い、教職員で共有するとともに、次年度に生かす。	○成果と課題について情報共有し、礼状を添える。

● 実施のポイント

- ① 学校が主体となって企画・運営を行う。
- ② 核となる教員や授業を担当する教員だけでなく、全ての教職員の共通理解のもとに進める。
- ③ 学校での取組内容を保護者や関係機関などに周知・共有することにより、連携体制を構築する。
- ④ 年度当初の職員会議等で、「学校保健計画」に基づき外部講師を活用したがん教育の開催予定を周知するなど、情報を共有する。

実施上の留意点

● 外部講師の選定

- がんに関する科学的根拠に基づいた理解をねらいとした場合
学校医、がん専門医(がん診療連携拠点病院等の活用を考慮)など、医療従事者による指導が効果的である。
- 健康と命の大切さをねらいとした場合
医療従事者だけでなく、がん患者やがん経験者による指導も効果的である。

● 運営上の留意点

- 本教材を活用した授業に当たっての留意事項(P. 5 参照)を講師と事前に共有する。
- 授業計画の作成に当たっては、授業を企画する教員が主体となるよう留意する。
- がん患者・経験者の体験談は貴重であるが、家族に経験者がいる場合などには、強い印象を与える可能性があることに留意する。
- 教員と外部講師は、事前・事後に打合せを行い、授業のねらいを共通理解することが重要である。
- 外部講師を活用して実施する指導を日常の教育活動と関連付ける。

依頼を受けた外部講師の方へ

● 内容と指導のポイント

- 講師が伝えたい内容で一方的に授業を構成したり、難解な言葉や専門用語を用いたりすることを避け、興味・関心や理解力など、生徒の発達段階を十分考慮して、わかりやすい言葉づかいや内容となるよう工夫しましょう。
- 具体的な事例を用いたり、話し合う場面を設けるなど学習活動を工夫したりすると、学習効果が高まります。
- 怖さのみを強調するのではなく、がん教育を通じて「自他の健康と命の大切さを主体的に考えることが充実した人生につながる」という積極的なメッセージを伝えることが望まれます。

■ 本教材を活用した授業を実施するに当たっての留意事項

● 生徒の心理面について

家族や身近な人ががんの治療中であつたり、がんによって亡くなつたりしている生徒への心理面の配慮が必要です。事前調査を行うなどして、実態を把握し、授業内容について事前に話をしておくなど、必要に応じた対応をしてください。

また、がんの原因は解明されていない部分もあり、わかっている原因については対策をとれますが、現在の科学ではがんに罹患する可能性をゼロにできないため、がん患者を支える社会の必要性に気付かせるという学習の方向性が重要です。

● 小児がんについて

本プログラムで扱うがんは「成人のがん」であり、「小児がん」について学ぶものではありません。特に、小児がんの治療中あるいは既往歴のある生徒がいる場合は、事前に当該生徒の保護者にも授業実施に当たって注意すべき点を確認しておくなどの配慮が必要です。

● 生活習慣とがんとの関連性について

規則正しい生活習慣によって、将来がんになるリスクを低くすることができますが、絶対にがんにならないわけではありません。

※がんには、まだ原因が判明していないものもある。全てのがん患者が、生活習慣が悪かったからという誤った印象を与えないよう注意する。

● 喫煙や飲酒について

未成年の喫煙や飲酒は、法律で禁じられていることを説明するだけでなく、がんやその他の病気の予防のためにも、成人になっても喫煙や過度の飲酒を控える気持ちを育てる必要があります。

● がん検診について

がん検診によって早期にがんを発見することができ、治る可能性が高くなります。

体に不調がなくても定期的に検診を受け、体に不調がある場合は、無理や我慢をせず、病院で診てもらうことが大切です。

● 指導する予防法について

本プログラムで紹介するがんの予防については、現状で推奨できる科学的根拠に基づいたものについて示しています。しかし、現在もがんに関する研究は進められており、今後がんに関連する情報が更新されることが予想されます。そのため、常に正しい情報の収集・活用が大切です。

本モジュールでは、「がん」のしくみや、原因を知ることを通して、生活習慣に配慮することでがんになるリスクを減らすことができることについて学びます。

<授業進行案> ※授業中に心が苦しくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点など
5分	1. スライドを用い、がんにどのようなイメージをもっているかを確認する。 2. がんのしくみを理解する。 ① 問いかけ 健康な体がどうなることを“がん”というのだろうか？ ② 自由に発言する。 予想される生徒の声：できものができるとは、食べ物が食べられなくなる など ③ スライドを用いて、がんは細胞が悪性化したものであることを知る。	※がんについて「怖い」などのイメージでしか捉えられていないことに気付かせ、がんへの正しい知識や理解への興味・関心を高めます。
5分	3. がんの原因について知る。 ① 問いかけ がんの原因は何だろう？ ② 自由に発言する。 予想される生徒の声：遺伝ではないか、食べ物のせいではないか、運動不足ではないか など ③ 男女別のがんの主な原因のグラフを見て、がんの原因は大きく分けて三つに分類できることを理解する。 ④ 高齢化も原因の一つであること、つまり誰もがなりうる病気であることを知る。 ⑤ がんは原因のわかるものとわからないものがあることに気付く。	※小児がんなど、生活習慣とは関連のないものもあるため、誤解がないようにします。
4分	4. 自分に今できることを考える。 ① 問いかけ がんになるリスクを減らすことはできるのだろうか？ ・ がんの原因の中から、「生活習慣」については、自分たちにできることを確認し、どんな生活をすればよいか自由に発言する。	
1分	5. モジュール1を振り返る。	

<スライド一覧> 全15枚



本モジュールでは、日本の「がん」の現状や、高齢化の現状を理解することを通して、がんは誰にでもなりうる病気であることについて学びます。

<授業進行案> ※授業中に心が苦しくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点など
14分	1. スライドを用い、がんにどのようなイメージをもっているかを確認する。 2. 日本のがんの現状を理解する。 ？ 問いかけ 日本ではどれくらいの人ががんになっているのだろう？ ①自由に発言する。 予想される生徒の声:100人に1人くらいじゃないか など ②スライドを用いて、がんになる人は二人に一人、亡くなる人は三人に一人である現状を理解する。 ③がんは細胞が分裂するときに変異し悪性化したものであることを振り返る。 ④スライドを用いて、日本の平均寿命が年々延びていることに気付く。 ⑤がんは細胞分裂のときに変異し悪性化したものであることから、長生きすれば細胞の変異の可能性が高まること、また、加齢により細胞を正常に保つ働きが低下し始めることを知る。 ⇒がんは誰もがなりうる病気 ⑥参考情報として、子宮頸がんや乳がんが多い20歳代から50歳代前半までは、がんの罹患率は女性が男性よりやや高く、60歳代以降は男性が女性より顕著に高くなっていることなどを知る。	※がんについて「怖い」などのイメージでしか捉えられていないことに気付かせ、がんへの正しい知識や理解への興味・関心を高めます。 ※本モジュールでは左記内容を提示していますが、口頭などで、「平均寿命が延びてがんになる可能性が高まっているからこそ、若い頃からがんの原因を排除したり、早めにがんを見つけて治療することが必要だね」など予防や治療について触れてもよいでしょう。
1分	3. モジュール2を振り返る。	

<スライド一覧> 全12枚

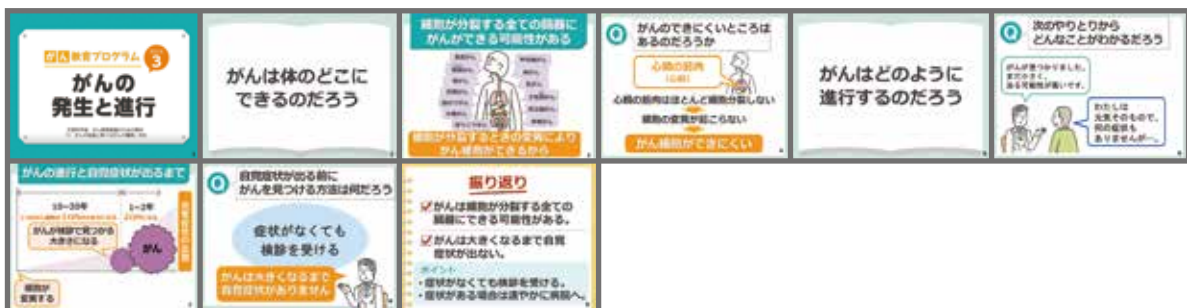


本モジュールでは、がんは発生から自覚症状が出るまでの期間が長いことを知ることを通して、症状がなくても検診を受けることの重要性について学びます。

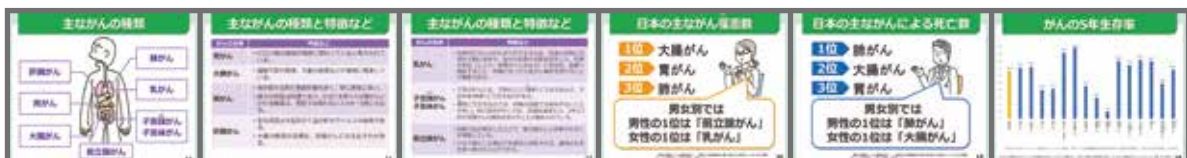
＜授業進行案＞ ※授業中に心が苦しくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点など
7分	1.がんは体のいたるところにできる可能性があることを知る。 ① 問いかけ がんは体のどこにできるのだろう？ ② 自由に発言する。 予想される生徒の声：胃がんって胃になるがんのことだね、大腸、肺、体のいろいろなところ など ③ スライドを用いて、がんは細胞分裂の変異によるものなので、体のいたるところにできる可能性があることを知る。	※参考情報として、心臓の筋肉にはできにくいこと、できる場所などによって見付きやすさが違うことを伝えます。
7分	2.がんは自覚症状が出るまでの期間が非常に長いことを知り、自覚症状がなくても検査に行くことが必要であることを確認する。 ① 問いかけ がんはどのように進行するのだろうか？ ② 【ワーク】スライドをもとに、がん検診で小さながんが発見された場合、患者のセリフからわかることは何か考える。 予想される生徒の声：がんが小さいときは症状がない、がんだとわからないまま診察されることがある など ③ がんは自覚症状が出るまで10～20年かかることもあることに気付く。 ④ 自覚症状が出る前にがんを見付ける方法を考え、定期的に検診を受け、早めに発見することが大切であることを理解する。	※モジュール5で「検診の意味」について取り扱います。関連付けて御活用ください。
1分	3.モジュール3を振り返る。	

＜スライド一覧＞ 全9枚



＜資料スライド＞ 本モジュールに関連した情報となります。必要に応じて御活用ください。



本モジュールでは、がんの原因について振り返り、自分たちが気を付けることで、がんのリスクを軽減することができることについて学びます。

＜授業進行案＞ ※授業中に心が苦しくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点など
12分	1. がんにならないために自分ができることを知る。 ① 問いかけ がんにならないためにできることは何だろう？ ② 自由に発言する。 予想される生徒の声: たばこを吸わないこと、好き嫌いせずにバランスのよいものを食べる など ③ スライドを用いて、男女別のがんの原因を確認し、がんの主な原因は三つに分類できるが、その中で「生活習慣」については自分で気を付けることができることに気付く。 ④ 【ワーク】どのような生活を送ればよいか、発言する。 予想される生徒の声: 早く寝る、栄養のあるものを食べる、運動する など ⑤ 禁煙や節酒など望ましい生活習慣が大切であることを理解する。 ⑥ 【ワーク】望ましい生活習慣が大切だとわかっていても、忙しさなどを理由にそのような生活を送らない人に対して、どうアドバイスをすればよいか考え、グループでロールプレイを行う。 ⑦ スライドを用いて、アドバイス例を伝え、身近な人に伝えていくことが大切であることに気付く。 ⑧ がんの原因にはわかっていないものもあるため、がん検診を受けたり、感染対策を講じたりすることが大切であることを伝える。	※ がんには原因がわかっていないものもあることをおさえましょう。 ※ 時間があれば保健体育の教科書などを使用し、健康的な生活習慣についてグループで調べ学習を行ってもよいでしょう。 ※ このワークの登場人物は、生徒の保護者世代を想定しています。それにより、自身の保護者にどのようにアドバイスをすればよいかを考えるきっかけとします。
2分	2. 大切な人ががんにならないためのメッセージを考える。 ① 問いかけ あなたの大切な人ががんにならないためのメッセージを考えよう ※ ここは自宅での宿題にすることも考えられる。 (もし時間に余裕があれば、個人で考え、手紙を書くなどの時間をとり、対象の方へそのメッセージを渡すように促す。)	
1分	3. モジュール4を振り返る。	

＜スライド一覧＞ 全13枚

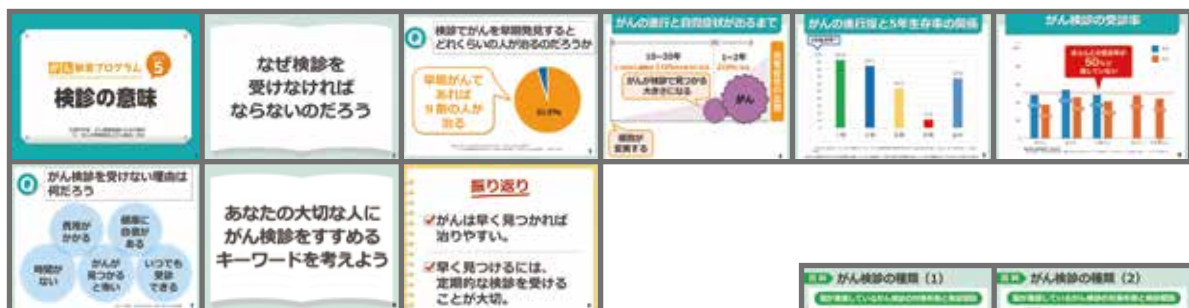


本モジュールでは、早期発見により約9割の人が治ることを知り、がん検診を受けることの大切さについて学びます。

＜授業進行案＞ ※授業中に心が苦しくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点など
12分	1.がん検診の有効性と、日本での受診率の現状について知る。 ①がん検診について知っていることを発言させたあと、国が推奨しているがん検診の説明を聞き、さまざまな検診を推奨していることを知る。 ？ 問いかけ なぜ検診を受けなければならないのだろう？ ②自由に発言させる。 予想される生徒の声：早く見付かったほうがいいと思うから、検診でがんが見つかることがあるから など ③スライドを用いて、検診でがんを早期発見すれば、がんの種類によっては、約9割の人が治る可能性があるといわれていること、自覚症状が現れるまでに10年以上かかることがあることに気づき、検診の有効性について理解する。 ④がん検診の受診率は50%に達していない事実を知る。 ⑤【ワーク】なぜ、がん検診の受診率が約50%程度だと思うかをペアまたはグループで話し合い、発表する。 ⑥スライドを用いて、がん検診を受けない人の声を知り、自分の大切な人にどう伝え、どう働きかけたらよいか考える。	※ 資料スライドに「がん検診の種類」を入れているので必要に応じて御活用ください。 ※ 検診で見つかるがんは早期発見の場合が多く、がんが治る可能性も高くなるなど、がんについて正しく理解し、多くの人々が積極的にがん検診を受けることが望まれていることを伝えましょう。
2分	2.大切な人にごがん検診をすすめるキーワードを考える。 ？ 問いかけ あなたの大切な人にごがん検診をすすめるキーワードを考えよう ※ここは自宅での宿題とすることも考えられる。 (もし時間に余裕があれば、個人で考え、手紙を書くなどの時間をとり、対象の方へそのメッセージを渡すように促す。)	
1分	3.モジュール5を振り返る。	

＜スライド一覧＞ 全9枚



＜資料スライド＞ 本モジュールに関連した情報となります。
必要に応じて御活用ください。

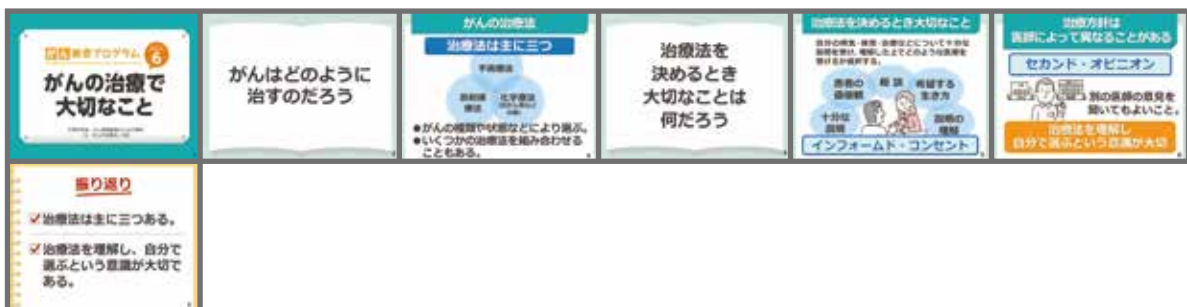


本モジュールでは、がんの治療法について知り、がん治療においてそれぞれの治療法を理解し、自分で納得して選択する(決める)ことの大切さについて学びます。

<授業進行案> ※授業中に心が苦しくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点など
6分	1.がんの治療法について知る。 ? 問いかけ がんはどのように治すのだろう? ①自由に発言する。 予想される生徒の声:手術じゃないかな,薬で治すと思う など ②がんの治療法は主に三つあり,がんの種類や状態によって選ぶこと,いくつかの治療法を組み合わせることもあることを理解する。	※がんの種類と進行度などを踏まえて,これらを単独あるいは組み合わせて行うことが,標準的な治療法として推奨されていることをおさえましょう。
8分	2.治療法は自分で納得して選択すること,そのためには十分な説明を受け,理解することが大切であることに気付く。 ? 問いかけ 治療法を決めるとき大切なことは何だろう? ①自由に発言する。 予想される生徒の声:家族で話し合うことかな,自分が納得することじゃないか など ②がんの治療は自分が後悔しないように,納得できるまで医師と十分に話し合い,最終的に自分で選択することが大切であることに気付く。 ③治療方針は医師によって異なることがあるため,別の医師に意見を聞いてよいことを伝え,自分が納得して選び,後悔のないよう決めることの重要性について考える。	※治療方針は医師によって異なる場合もあり,別の医師の意見を聞きたいときには,セカンド・オピニオンという仕組みを利用することを説明し,治療方法を自分で選択するという意識を持つことの大切さも伝えます。
1分	3.モジュール6を振り返る。	

<スライド一覧> 全7枚



<資料スライド> 本モジュールに関連した情報となります。必要に応じて御活用ください。



本モジュールでは、がん治療は長期に渡ることが多いため、がん患者やその家族にさまざまな問題が生じていることを知り、それぞれの分野の専門家と、その人らしく生きるための支援が行われていることについて学びます。

＜授業進行案＞ ※授業中に心が苦しくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点など
14分	1.がんの治療に必要な支援と、その考え方について知る。 ①がんになるとどのような問題が起こると思うかを考え、長期にわたる治療により、さまざまな問題(苦痛やつらさ)が発生することを知る。 ②がんの治療中に支援が必要な人は誰かを考え、がん患者だけでなく、支える家族もさまざまな問題を抱えることを知り、がん治療に必要な支援とは何かについて気付く。 ❓ 問いかけ がん治療にはどのような支援が必要なのだろう？ ③自由に発言する。 予想される生徒の声:お金を貸してくれるところがあるよね、仕事を休んでもいいようにする など ④スライドから、「体の痛み・つらさ」「心のつらさ」のそれぞれに専門家による支援があり、病気に伴う体と心の痛みを和らげる支援を緩和ケアと呼ぶことを理解する。 ❓ 問いかけ なぜ緩和ケアが必要なのだろう？ ⑤【ワーク】緩和ケアがあるときと、ないときの体や心の状態を想像し、緩和ケアがなぜ必要かについてグループで話し合い、発表する。 ⑥緩和ケアはがんと診断されたときから適切に行われるべきもの、そして単にがんを治すだけでなく、その人らしく生きるための支援であることを理解する。	※「問題」のイメージがわきにくい場合は、「入院代はいくらぐらいのかな」、など患者がどのようなことに不安を感じているかを想像させるとよいでしょう。
1分	2.モジュール7を振り返る。	

＜スライド一覧＞ 全14枚



本モジュールでは、がんを経験した方の考えや思いを知り、がんの治療は、単に病気を治すだけでなく、治療中、治療後の “生活の質”を大切に、がんになってもその人らしく、充実した生き方ができることが重要であることについて学びます。

＜授業進行案＞ ※授業中に心が苦しくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点など
14分	1.がんの治療に必要な支援と、その考え方について知る。 ① 問いかけ がん患者は何を望み何を求めているのだろうか？ ② 自由に発言する。 予想される生徒の声:早く治ることだと思う、家族にそばにいてほしい、働きたい など ③【ワーク】二人の事例を読み、がん患者が何を望み、何を求めているかについて改めてグループで話し合い、発表する。 ④がん患者一人一人、背景や状況が異なるが、がんと共に歩む気持ちを持ち、自分らしく生きようとする(生活の質「クオリティ・オブ・ライフ」の維持・向上)が大切であることを知る。	※がん経験者等の外部講師を活用し、学習内容に応じて体験談を話してもらおうとよいでしょう。 ※掲載している事例以外にも、二名のがん患者へのインタビュー映像も用意しています。それを視聴し、がん患者の思いや、がん患者が望むことについて話し合ってもよいでしょう。
1分	2.モジュール8を振り返る。	

＜スライド一覧＞ 全5枚

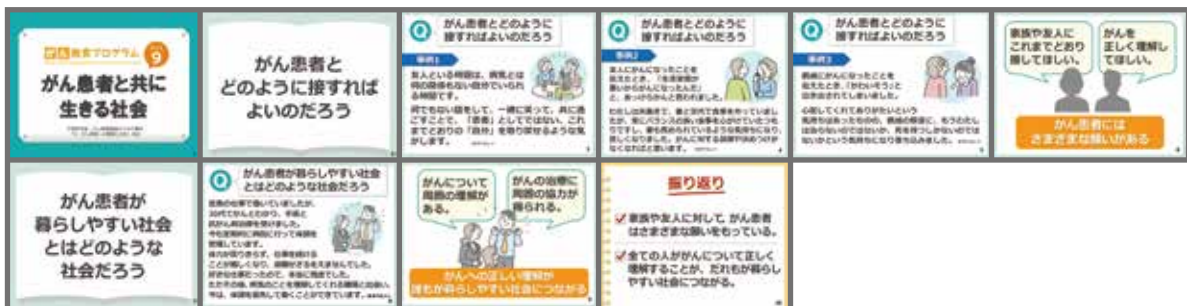


本モジュールでは、がん患者との共生に必要な視点や考え方を知り、がんについて正しく理解することで患者が暮らしやすい社会につながることについて学びます。

＜授業進行案＞ ※授業中に心が苦しくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点など
7分	1.がん患者との共生に必要なことについて知る。 ① 問いかけ がん患者とどのように接すればよいのだろう？ ② 自由に発言する。 予想される生徒の声:体調が悪そうだったら声をかける、普段どおりに接する など ③ 事例を読み、どのように接すればよいと思うかを考え、発表する。 ※三つの事例を用意していますが、グループで分担する、選択して使用するなどアレンジしてください。 ④ がん患者一人一人、背景や状況が異なるが、多くのがん患者は家族や友人にこれまでどおり接してほしいなど、さまざまな願いがあることを知る。	※がん経験者等の外部講師を活用し、学習内容に応じて体験談を話してもらおうとよいでしょう。 ※事例はあくまで一例であり、必ずしも全員ではないことを伝えつつ、だからこそコミュニケーションをとり、自分の身近な人が何を求めているかを知ることが大切であることを伝えましょう。
7分	2.がん患者が暮らしやすい社会にするためには、全ての人ががんについて正しく理解することが必要であることを知る。 ① 問いかけ がん患者が暮らしやすい社会とはどのような社会だろう？ ② 自由に発言させる。 予想される生徒の声:病気になる前と同じような生活ができるような社会 など ③ 【ワーク】事例を読み、どのような社会が暮らしやすい社会だと思うか、グループで話し合い、発表する。 ④ がんへの正しい理解が、誰もが暮らしやすい社会につながることに気付く。	※時間に余裕がある場合は、そのような社会にするために、私たちにできることは何だと思いかを考えさせてもよいでしょう。
1分	3.モジュール9を振り返る。	

＜スライド一覧＞ 全10枚



＜資料スライド＞ 本モジュールに関連した情報となります。必要に応じて御活用ください。



参考情報

スライド教材の、ワークや事例を掲載しています。コピーして生徒に配付する、先生が作成されるワークシート等へ貼付するなど、アレンジして御活用ください。

モジュール4

がんのリスクを軽減するためのアドバイスを考えよう。

生活習慣が
がんの予防に大事と
知っていますよ！

でも、体がじょうぶ
だから気にしてません。
忙しくて、それどころ
じゃありませんよ…



Aさん(40歳)

<アドバイス>

モジュール8

事例1

進行したがんとなり、
抗がん剤治療を続けている。
仕事を続けるため、
通院しながらできる治療法を選んだ。
子供に病気のことをどう話すか悩んでいるが、
今は家族との時間を何よりも大切に過ごしたいと思っている。



事例2

乳がんでは胸に大きな
傷が残り、自信を失って
閉じこもりがちになっていた。
患者の会に入って同じ乳がんの仲間と出会い、
貸切で温泉に入ることができるようになった。
好きだった旅行を楽しむことができるようになった。
これからも生き生きと自分らしく生きたいと
思っている。



モジュール9

事例1



友人という時間は、病気とは何の関係もない自分でいられる時間です。

何でもない話をして、一緒に笑って、共に過ごすことで、「患者」としてではない、これまでどおりの「自分」を取り戻せるような気がします。

事例2



友人にがんになったことを伝えたとき、「生活習慣が悪いからがんになったんだ」と、あっけらかんと言われました。

わたしは共働きで、妻と交代で食事を作っていましたが、常にバランスの良い食事を心がけていたつもりですし、妻も責められているような気持ちになり、悲しくなりました。がんに対する誤解や決めつけがなくなればと思います。

事例3



親戚にがんになったことを伝えたとき、「かわいそう」と泣き出されてしまいました。

心配してくれてありがたいという気持ちはあったものの、親戚の態度に、もうわたしは治らないのではないかと、死を待つしかないのではないかとこの気持ちになり落ち込みました。

モジュール9

事例



営業の仕事で働いていましたが、30代でがんとわかり、手術と抗がん剤治療を受けました。

今も定期的に病院に行って体調を管理しています。

体力が戻りきらず、仕事を続けることが難しくなり、退職せざるをえませんでした。好きな仕事だったので、本当に残念でした。ただその後、病気のことを理解してくれる職場と出会い、今は、体調を優先して働くことができています。

小学校向け映像教材

オプション

小学校向けがん教育教材では、以下の内容の映像教材を提供しています。
中学生、高校生でも参考にしていただけますので、目的に応じて御活用ください。

映像教材① 「がん博士の『がんについての基礎知識』」 (6分35秒)

 	質問① どうしてがんになるの？ 「どうしてがんになるのか」について、説明しよう。私たちの体は、たくさんの細胞でできている。この細胞は、同じものをコピーしながら新しくなっていくんだけど、まれに、別の細胞ができてしまう。それが、がん細胞になることがあるんだ。がん細胞は、どんどん増えていく。そうすると、正しい細胞が正しく働かなくなってしまう。 その病気のことをがんと言った。私たちの体はたくさんの細胞からできているのだから、がんという病気は誰もがなる可能性がある病気なんだよ。
 	質問② がんにならないためには、どうすればいいの？ 原因の一つには、たばこ。そして、お酒の飲みすぎ。さらに、生活習慣の乱れ。お肉を多く食べて、野菜はあまり食べなかったり、塩分を取りすぎたりしてしまうなど。また、運動不足や食べ過ぎによる太りすぎ、反対に、やせすぎもよくない。がんになる可能性が高くなってしまいます。 がんの原因をつくらない予防のためにも、健康によい生活習慣を送ることが大切だ。
 	質問③ がんは、なおすことができるの？ がんがまだ小さいうちに治療すれば、ほとんどの人のがんを治すことができるようになったんだ。 だから、小さいうちに、がんを見付けることが大切。でも困ったことに、がんが小さいうちは自覚症状がなくて、自分自身では気づきにくい。気づいたときにはすでにがんが大きくなってしまっていることが多いんだ。 だから、「早期発見」と言って、できるだけ小さいうちに早く見付けることが大切なんだよ！
 	質問④ どうすればがんを早く見付けられるの？ がんかどうかを調べるのは、まず、何の症状がなくてもお医者さんに定期的に診てもらって、「がん検診」が必要なんだ。検診では、肺や胃など、体のそれぞれの場所に応じた検査をして、自分では気づかない小さな異常を見付けることができるんだ。 がんは、早く見付ければ、ほとんどが治る可能性の高い病気。対策には、まず予防。健康によい生活習慣。そして、もう一つが、早期発見のためのがん検診。この二つをよく覚えておいて、実行してほしい。そしてみんなの大切な家族にも、伝えてほしい。元気に毎日を過ごすためには、健康が大切。健康のためにできることを今から始めよう。

映像教材② 「がんと生きる」

長谷川一男さんのエピソード (5分24秒)



がんとわかったときは、もう頭が真っ白ですね。当時、小学校2年生の息子と幼稚園年長の娘がいたので、子供にどう伝えればいいのか…。4日間一睡もしなかったのを覚えています。

自分が治療に向き合うきっかけとなったのは、一人のお医者さんの「可能性はゼロじゃない。ゼロでないんだったら戦うべきじゃないか。」という言葉。それから、子供たち、妻のためにも、納得いくまで先生と話し合って治療法を決め、治療を進めていきました。

私が今、一番大切にしているのは、私が経験したことを、がんを患う人たちに共有していくことです。

みんなで話し合う場をつくって、病気に関する勉強会を開いています。そこに、先生を呼んで、相談しながら正しい情報を受け取り、情報発信をしています。みんなで励まし合う場をつくっているのです。

みなさんには、「病気になっても自分の人生なので後悔しないように生きる。」ということを強く伝えたいです。

自分の人生を大切に、後悔しない、そういう生き方をしてほしいと思っています。

倉本久恵さんのエピソード (5分03秒)



がんとわかったのは検診でした。とてもショックで、残してしまう家族への心配が一番大きかったです。でも、毎日のようにお見舞いに来てくれた家族の支えと励まして、治療をがんばることができました。

今はパン屋で仕事をしています。毎日朝はすごく早いし、パン屋の仕事はすごく力を使う肉体労働ですが、やっぱり自分がやりたかった仕事に就けて本当に良かったと、毎日充実しています。

今、大切にしていることは、家族のためにバランスのよい食事を作って、家族が健康であるように努めることです。今まで心配をかけた分、家族には健康でいてほしいと考えています。毎日家族と一緒に笑っている時がとっても幸せです。

健康であれば自分の夢もかかいます。バランスのいい食事をとって、規則正しい生活をして、毎日過ごしてください。そして、家族を大切にしてほしいと思います。

モジュール組合せ例

本教材は授業のねらいに合わせて、さまざまな組合せが可能です。

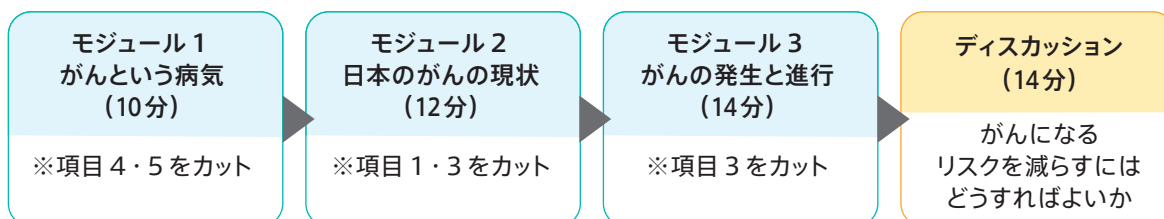
組合せ

①

がんについて正しく理解させたい！

時間 1 時限(50分)

●組合せモジュール



※各モジュールの授業進行案の「1, 2, 3…」を項目と位置付けています。

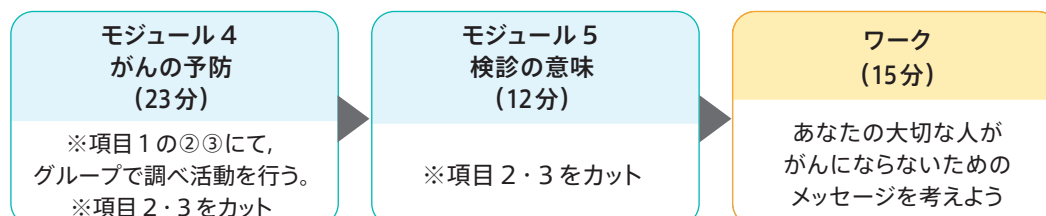
組合せ

②

がんの予防について理解させ、行動にうつさせたい！

時間 1 時限(50分)

●組合せモジュール



※各モジュールの授業進行案の「1, 2, 3…」を項目と位置付けています。

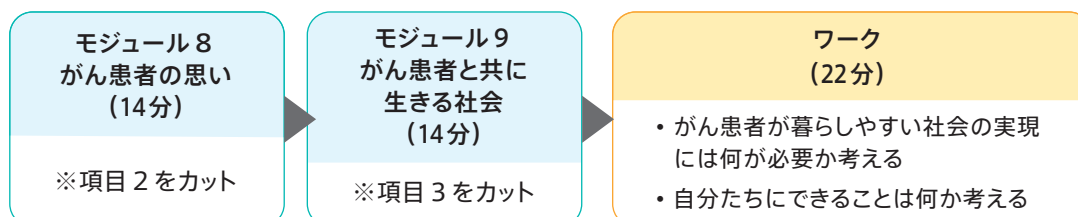
組合せ

③

がん患者の思いを理解させ、自分にできることを考えさせたい！

時間 1 時限(50分)

●組合せモジュール



※各モジュールの授業進行案の「1, 2, 3…」を項目と位置付けています。

● 文部科学省「がん教育推進のための教材」

学校においてがん教育を実施するに当たり、効果的な指導が行えるような補助教材です。

http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1369992.htm

● 「がん教育プログラム(小学校版補助教材)」

上述した「がん教育推進のための教材」に対応した小学生向けの教材です。

1時限で「がんの正しい知識」と、「健康と命の大切さ」について理解できる学習指導案や映像教材、ワークシートを提供しています。



● 文部科学省「外部講師を活用したがん教育ガイドライン」

学校において、医師等の外部講師ががん教育を実施するに当たり、最低限留意すべき事項等を示すガイドラインです。

http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1369991.htm

● 国立がん研究センターがん対策情報センター「がん情報サービス」

<http://ganjoho.jp/>

本プログラム作成に当たっては、作成委員会を設置し、アドバイス及び監修をいただきました。
また、本プログラム改訂に伴い、検討委員会を設置し、アドバイス及び監修をいただきました。

作成委員会メンバー一覧（五十音順：平成 29 年 3 月）

植田 誠治氏（聖心女子大学文学部教育学科教授）

塚崎 好起氏（岡山県教育庁保健体育課指導主事）

中川 恵一氏（東京大学医学部附属病院放射線科准教授，緩和ケア診療部長（兼任））

林 和彦氏（東京女子医科大学がんセンター長，化学療法・緩和ケア科教授）

広野 光子氏（がんを明るく前向きに語る・金つなぎの会（自助努力の患者会）代表，ジャーナリスト）

検討委員会メンバー一覧（五十音順：令和 3 年 3 月改訂）

助友 裕子氏（日本女子体育大学体育学部健康スポーツ学科教授）

林 和彦氏（聖マリアンナ医科大学客員教授）

前川 育氏（元NPO法人周南いのちを考える会代表）

丸山 洋生氏（愛知県立瀬戸高等学校校長）

吉野恵美子氏（茨城県教育庁学校教育部保健体育課指導主事）

文部科学省